

2016 **6**

28号

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization



Matsumoto Medical Center

まつもと医療センター

中信松本病院
松本病院

- ◆経営企画室長と挨拶・作業療法士長と挨拶……………2
- ◆新任・退任医師紹介……………3
- ◆新社会人を迎えて……………4
- ◆早坂先生を偲んで……………6
- ◆平成27年度第2回院内研究発表会……………9
- ◆まつもと医療センター緩和ケアチーム活動報告……………11
- ◆パーキンソン病の治療……………12
- ◆谷川整形外科クリニック紹介……………13
- ◆平成27年度 出前講座報告と今年度の予定について……………14
- ◆お知らせ……………16

Matsumoto Medical Center

新病棟を北東側から望む

経営企画室長 ご挨拶



経営企画室長
かとう みちお
加藤 道男

この度、4月1日付で着任いたしました加藤です。前任地は国立研究開発法人国立国際医療研究センターで人事部に配属し、人事制度等に関わらせていただきました。4年ぶりの国立病院機構及び引き続きの単身赴任生活となりますので、早く組織、地域になじむようにしてまいります。と思っています。

さて、平成29年度3月には当センターの長年の念願である一体化整備の一つ、新病棟が完成し松本病院の機能が新棟に移ります。その後30年5月には2つの病院が一体化することとなる

います。経営企画室として、平成28年度目標「①経常収支100%を目指し、新入院患者の確保、新規施設基準取得、上位施設基準取得、経費削減の提案など積極的に取り組む。②地域に密着した医療機関となるよう、情報発信・広報等について積極的に企画・立案・参加する。③院内外で開催される研修会に積極的に参加し、資質の向上に努める。④企画室内での情報を共有し、各部門との連携を密にし、遅滞なく業務を遂行する。」を達成できるように努力してまいりますので、どうぞよろしくお願います。



作業療法士長 ご挨拶



リハビリテーション科
作業療法士長
ふじの たかこ
藤野 貴子

この度、4月1日付で信州上田医療センターより異動して参りました。職員の方々には親切に迎え入れてくださり感謝しています。まだまだ慣れませんが、支えていただきながら奮闘中の毎日です。

初めて松本病院の窓から北アルプスの山並みを目にした時、あまりの美しさと雄大さと清々しさに心を打たれました。晴れた日には、歩行訓練の合間によく患者さんと「きれいだねえ」と眺め惚れ惚れとしています。

関東平野育ちですが信州にはご縁があり、国立病院機構に入

職する以前にも長野県内で急性期・回復期から地域・在宅の各領域でのリハビリテーションに従事していたことがあります。上田ではDMATにも参加していました。

中信病院とひとつになり「治す医療」から「支える医療」までを担う重要な節目の時期にまともと医療センターで勤務させていただくからは、何ができるかわからないけど自分のできる精一杯のことを…と考えております。ご指導の程、よろしくお願致します。

とはいえ、松本や塩尻は初めてですので、ご当地ならではの魅力や見どころ、おいしいもの情報など教えていただけると嬉しいです!!こちらもどうぞよろしくお願致します!



新任・退任医師紹介



新任
医師

松本病院

よろしくお願ひします

循環器内科



こてかわ なお ふみ
小手川 直史
平成12年卒
専門：家庭医、地域
医療在宅、日本消化
器内視鏡学会

日本内科学会、日本プライマリ・ケア連合
学会
総合内科専門医、日本プライマリ・ケア連合
学会認定医、日本消化器内視鏡学会専門医

普段は地域の診療所で働いていますが、再勉強のため1月より循環器内科でお世話になっています。松本の病院で働くのは初めてですので、多くの方々と知り合いネットワークを広げていきたいと思ひます。お気軽に声をかけて下さい。

内科



たたい とし はる
多田井 敏治
消化器内科医師
平成18年卒
専門：消化器内科

日本内科学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本
消化器学会、日本消化器内視鏡学会、日本臨床腫瘍
学会、日本肝臓学会

日本内科学会認定医、日本プライマリ・ケア連合学
会認定医、日本消化器学会専門医、日本消化器内視
鏡学会専門医

はじめまして。4月から松本病院で働かせていただいでおり
ます多田井敏治と申します。専門は消化器、肝臓ですが少し
でも地域の方のお役に立てるように頑張っていこうと思ひま
す。よろしくお願ひ申し上げます。

研修医

中信松本病院



かつ れん たく ま
勝連 拓磨

1年目研修医の勝連拓磨です。これから2年
間よろしくお願ひします。



なが しま だい すけ
長島 大介

初期研修一年目、信州大学とのたすきがけで
す。短い期間ですが宜しくお願ひ致します。



みず はた かい
水畑 戒

初期研修医1年目でまだまだ分からないこと
ばかりですが、先輩の医師、看護師、事務の
の方々のサポートのおかげで毎日充実した日々
を送っております。



こ まつ のぼる
小松 登

少しでも多くのものを吸収できるようにがんば
りたいと思ひます。1年間ですが、よろし
くお願ひ致します。

新任
医師

中信松本病院

神経内科



なか むら あき のり
中村 昭則
神経内科部長
平成3年卒
専門：内科学、神経内
科学（特に遺伝性筋疾
患、神経変成疾患）

日本内科学会、日本神経学会、日本リウマチ学会、日本人類遺伝学会、日本リハビリテーション医学会、日本遠隔医療学会、日本再生医療学会、世界筋学会
日本内科学会認定内科医、指導医、日本神経学会代議員、認定専門医、指導医、日本遠隔医療学会分科会会長、Editorial Board member of BioMed
Research International, Editorial Board member of World Journal of Methodology, Editorial Board member of Journal of
Neurological Disorders&Strokes

現在までに、神経難病の中でも筋ジストロフィーおよび運動ニューロン
病の診断・治療法の開発、在宅医療のための電子連携システム、遠隔診
療、コミュニケーション支援に取り組んできました。筋ジストロフィー
に対しては、筋ジストロフィーの診療を行う複数施設の多職種からなる
チーム医療（長野県筋ジストロフィー診療ネットワーク）を構築し、診
療の標準化と治験実施体制の構築を進めて行きます。また、在宅療養支
援としてICTを用いた電子連携システム、人工呼吸器の遠隔監視・ア
ラーム通報システム、および視線入力装置を用いたコミュニケーション
システム等の開発を行っており、難病患者さんが安心、安全に療養でき
る環境を提供できるよう取り組んでいきたいと考えております。

小児科



み さわ ゆ か
三澤 由佳
小児科医師
平成13年卒
専門：小児科一般、
小児神経、小児リハ
ビリテーション

日本小児科学会、日本小児神経学会、日本リハビリテーション
学会、日本周産期・新生児医学会、日本公衆衛生学会
日本小児科学会認定専門医

松本生まれ、松本育ちです。地域のお子さんの健やかな成
長・発達のため、また、具合の悪いお子さんの症状を和ら
げるために、日々笑顔で診療にあたります。

呼吸器内科



の ざわ しゅう へい
野沢 修平
呼吸器内科医師
平成22年卒
専門：呼吸器内科

日本内科学会、日本呼吸器学会
日本内科学会認定医

松本地域の皆様の診療をさせていただき事で、自分
自身の経験を積むとともに、皆様のお役に立てれば
と思ひます。よろしくお願ひします。

退任
医師

松本病院

血液内科

み むら ゆう と
三村 優仁
血液内科医師

内科

かみ じょう あつし
上條 敦
内科医師

臨床研修医

みず の のぶ ひこ
水野 伸彦
臨床研修医

退任
医師

中信松本病院

呼吸器内科

はや さか むね はる
早坂 宗治
内科系診療部長

呼吸器外科

くに みつ た も
國光 多望
呼吸器外科医師

お世話になりました





を 迎 え て

今春、当センターへ就職し社会人の第一歩を踏み出したみなさん、おめでとうございます。今日の医療はますます多職種間の連携ならびに医療・福祉の関係機関等との幅広い協力が重要となってきました。始めは自分の仕事を覚えることに無我夢中と思いますが、次第に視野を広げて地域はもとより日本の医療を担う人材に育っていただきたいと思います。関係する医療機関、福祉施設、行政機関の皆様もよろしくご指導お願い申し上げます。
続いて先輩からのエールをいただきましたので、ご紹介いたします。

新入職員の皆様、ご就職おめでとうございます。就職活動や国家試験対策など皆様の努力が実を結び、このまつもと医療センターで一緒に働くことができ、とてもうれしく思います。

松本病院での勤務には少しづつ慣れてきたでしょうか。新たなスタートを迎え、希望にあふれてわくわくする一方で、これからうまくなっていくのか少し不安に思っている方もいると思います。私も研修医になったころはうまくいかないことの方が多く悩むことも多かったです。でも、1つ1つ努力し向き合うことで日々できることが増えていく、研修時代はそんな楽しい日々であったとも思います。こんな社会人になりたいと思いついてきた目標に近づけるよう応援しております。一緒に頑張りましょう。

血液内科
磯部 玲

中信松本病院神経内科後期研修医の宮平です。新研修医の皆様、まずは合格おめでとうございます。研修も始まったばかりで新鮮なことも、また苦勞することも多く、各人各様に新しい生活に取り組まれていることと思います。私も3年前に初期研修医として松本医療センターで研修させていただき、多くの科をローテートしました。まつもと医療センターの雰囲気として、科の隔たりがなく、他科の先生とも相談しやすい環境があります。ローテートする科に関係なく、どの科の先生とも関わりを持つ機会があり、私も研修時や現在でも色々な先生方にお世話になっていきます。またどの科でも手技の経験を積む機会が多く、ローテートしていく中で貴重な経験を積むことができたと思います。研修期間これから共に頑張っていきましょう。この2年間が皆様にとって良いものになるよう応援しています。

神経内科
宮平 鷹揚

今年、私はプリセプターとして新人看護師に関わりながら、自分が新人だった時のことを思い出しています。毎日自分の力不足に落ち込んだり、看護師としての責任の重さを感じていました。その時先輩から「今は正確に1つずつ覚えるときだから焦らなくていいよ」と声をかけてもらったことを覚えています。早くいろんなことをできるようにならないと、と焦ってしまうこともあるかもしれませんが、1つずつ確実にできることを増やしていけば自分の力になると思います。また様々な患者さんと関わる中で多くのことを感じ覚えていくことも大切にしてください。

悩むことも多いかもしれませんが同期と話したり自分の趣味を見つくりフレッシュしながら楽しく一緒に働いていきましょう。

IC病棟
飯嶋 千春

新 社 会 人



社会人となって約1ヶ月経ちましたが、少し病院の雰囲気にも慣れはじめた頃でしょうか。

まだ分からない事だらけで、緊張の日々を送っていることだと思います。

最初は分からない事があって当然です。しかし、分からないことは分からないままにせず、困った時は困ったままにせず、まず自分で考え、自分から行動を起こしてみてください。

是非先輩看護師に相談してみてください。

また、勉強会での仲間との情報共有を大事にして、是非病棟で活かしていきましょう。

そして最後に、自分自身の健康管理も大切です。よく寝てよく食べて、そして気分転換も忘れずに毎日笑顔で出勤しましょう！

5病棟
齊藤 嘉菜

☆ようこそ、小児科病棟へ☆

小児科病棟は、様々な疾患の、乳児〜学童まで幅広い発達段階の子供たちの看護をしています。そのため、疾患だけでなく、発達段階に合わせてケアや声掛けを行っていく必要があります。3人の新人看護師のみなさん、病棟に配属されて、1ヶ月が過ぎましたね！慣れない病棟の中で、緊張いっぱい1ヶ月だったと思います。仕事の流れはもちろん疾患についても、覚えていかななくてはいいことがたくさんあり、子供たちとの接し方も含め大変だったと思います。ゆっくりでも確実に身につけていきましょう。

子供たちが笑顔で退院していけるよう、一緒にがんばって看護していきましょう！



1病棟
菊池 亜依

私は松本病院手術室で働き3年目になります。手術室に配属された時はとても楽しみでしたが、楽しみ以上に不安でいっぱいでした。しかし、手術室の先輩方は新卒で何もわからない自分に対してひとつひとつ丁寧に優しく時には厳しく指導してくれました。そのおかげで現在はいよいよ業務にも慣れ、毎日の手術がとても楽しく、充実した日々を過ごせています。今年度はプリンターとして新人指導を担当しています。新人の皆さんは、まだ慣れない環境の中で毎日の業務や予習・復習に追われますが、患者さんのためになります。私たち松本病院のチームの一員として共に頑張ってください。

手術室
原 玲央奈

早坂先生追悼

早坂先生は、平成28年4月1日にお亡くなりになりました。3月29日に東京に出張の途上で、先生が倒れたとの報に接しました。車窓からは暖かい春の日差しの差し込んでいるなか、あまりに突然のことで我が耳を疑いました。今でもまだ信じられない気持ちです。

早坂先生とは、わたしが神経内科の医長をしていた当時から14年間のお付き合いでした。最初にお会いしたのは、病院の近くの民家を改造した料亭の2階の病棟歓迎会の席でした。長身で俳優になってもおかしくないような容貌と雰囲気のある男性がわたしの前に座っていました。中信松本の勤務を希望した理由をお尋ねすると、前任地（上田）での勤務が忙しすぎて家族との時間が十分とれなかったこと、そして是非とも結核をやりたいので、との答えが返ってきました。

それからは診療上のコンサルトはもとより、一緒に始めた医局の症例検討会（通称、Dカン）、さらに平成25年から内科系診療部長として病院の運営にも尽力して頂きました。また長年にわたり、病院の健康管理医として300人近い職員全員の胸部写真を読み影し、検査データに目を通してコメントを書か

れていました。先生を失って病院には今も大きな喪失感が漂っています。

平成20年の春、先生は診療科の責任者として呼吸器病棟の再編に力を注がれました。看護師不足と結核病床の不採算性から、病院として結核病棟を縮小せざるを得なくなったのです。患者さんや家族への説明をはじめ院内外の職種間の調整役を先生は一手に引き受けられ、無事に危機を乗り越えることが出来ました。その4年後に先生は県の医師会報に「結核病棟の現況」と題して寄稿されています。「日本は結核の中蔓延国であるのに、結核に対する社会の意識は決して高いとはいえない。結核はまだ身近な伝染病であることを一般の人にも知ってほしい」と。結核は先生の未完のライフワークであったと思われまます。

ある時、呼吸器病棟に入院している患者のご家族が、病棟の対応に苦情を申し立てたので、その家族との話し合いの席に私も立ち会わせて頂いたことがあります。先生の毅然として言われた言葉「わたしはご家族が考えられている以上に、お父さん（患者さん本人）のことを考えています」は今も耳に残っています。先生はこの言葉に違わず、患者さんのことを常に最優先に

して考え行動される方でした。

まつもと医療センターは、来年年平成29年3月の完成をめざして新病棟の建設が進んでいます。先生は呼吸器科病棟のデザインに最初から関わって来られました。新しい病棟で働くことを人一倍楽しみにしておられた先生が、その完成を目前にして急逝されたのは本当に残念でなりません。

先生が愛着を持たれていたこの病院を、職員皆で力を合わせて更に発展させていきたいと念じています。先生を偲びながら、心からのご冥福をお祈り申し上げます。



副院長 大原 慎司
おおはら しんじ

早坂先生を偲んで

入院患者さんの言葉です。

『これから一生、桜の季節には

必ず早坂先生を思い出します』

4月、桜の花を見る直前に、早坂先生は急に旅立ちました。今でも、早坂先生の大きな声がナースステーションで聞こえるような気がします。中信松本病院の中央廊下を、白衣の裾をはためかせて颯爽と歩く早坂先生が見えるような気がします。

初めて私が早坂宗治先生と会ったのは、平成26年4月の事でした。背がスラリと高く、瞳の澄んだ、独特の緊張感がある先生という第一印象でした。それから2年間、2病棟で、病棟医長の早坂先生と一緒に勤務をしました。

早坂先生は、私の知る2年間、一日も病棟にこない日はありませんでした。土・日・祝日も夏休みも年末・年始も、毎日病棟に来て患者さんに話しかけ診察をしました。看護師が患者さんのことと夜中何時に電話をしても、指示を出したり、時には病棟に駆けつけたりしました。倒れる前日も夜遅くまで患者さんの治療をされていました。私や病棟スタッフに厳しい事を言う以上に、

自分に対してとても厳しい方でした。そんな早坂先生だから、先生にどんなに大きい声で指導されても『患者さんのために、2病棟のために私も何とかしなくちゃ、頑張らなくちゃ。』と、前向きに思うことができました。そして、時折『怒鳴ってすみませんでした。』と、頭を下げる早坂先生に、私も素直に深く頭を下げるようになりました。そんな早坂先生に、『全力を尽くす』という言葉の真の意味を教えていただきました。

その一方で、ナースステーションでは御自分のことを『お父さん』と言う事がよくありました。病棟看護師とワイワイしながら『お父さんの言う事を聞きなさい。』と仰っていました。大きな声で怒り、そして困った時や悩んでいる時は助けてくれました。早坂先生は病棟皆の、お父さんの存在でした。『お父さんが何とかする!』との先生の一言に、私自身何度も救われました。新病棟建築では、呼吸器内科病棟の設計図面を広げて夜遅くまで早坂先生と話しました。陰圧室やトイレ、ドア、浴室の位置等の大きな事から、コンセントの数等の細部にわたる事まで何度

も何度も話しました。『新病棟、楽しみですね。』と、私が言うのと、ニッコリ笑った早坂先生の顔、忘れません。その早坂先生の思いが詰まった新病棟がもうすぐ完成します。私は、早坂先生が命を懸けて築き上げた2病棟を、新病棟へと確実につなぐことができるようにしたいと思います。早坂先生の生き方、患者さんへの思い、仕事への熱意、病棟への愛情、病棟運営等、教えていただいた事を心に、全力を尽くします。



2病棟

病棟師長

二瓶

にへい

吾紀子

あきこ

平成27年度 第2回院内研究発表会



開会の挨拶 北野院長先生

臨床研究部長 武井 洋一

平成28年2月9日に、松本病院会議室で院内研究会を開催しましたのでご報告いたします。院内研究会は年2回秋と年度末に開催され、病院内各部署の取組の成果をお互いに理解するとともに、医療水準の向上をめざすことを目的としています。

今回は電子カルテ導入や、ID統合等、例年以上に多忙な業務にもかかわらず、各部署から16題の演題の応募がありました。当日は60名以上の職員の参加の中、演者に発表をしていただきました。例年通り特に優れた発表に優秀賞2題、奨励賞3題が選ばれ後日、表彰の上研究費が贈呈されました。表彰演題は以下のとおりです。

優秀賞

◆7病棟 太田里美

「長期臥床患者に対する呼吸状態改善への取り組み」
「体位ドレナージを取り入れて」

◆地域医療連携室 山本理紗

「気管切開患者の退院支援におけるソーシャルワーカーの役割」

奨励賞

◆4A病棟 宮嶋純子

「血液疾患でがん化学療法を受ける患者の口腔管理」
「口腔管理における看護スタッフの意識の変化」

◆5病棟 竹倉あかね

「当病棟における内服自己管理に関するインシデントの分析」

◆リハビリテーション科 有賀一朗

「パーキンソン病患者に対する高強度運動療法の効果」
「シングルケース」

研究費の使い方を知るとも院内研究会の目的のひとつです。研究費を獲得した方々はぜひ今の研究を展覧させたいように、



後日の表彰 (中信松本病院)

有効に研究費を利用したいと思いたいです。

院内研究発表会は、

たとえば若い人の学会発表の練習の場として、自分の部署の紹介を兼ねて、あるいは研究費獲得を狙って等、いろいろな部門、立場の方に参加していただきたいと思います。



発表の様子

臨床研究を行うに際しての倫理的配慮、個人情報保護の確保、ならびに研究計画書の提出、倫理申請といった複雑な仕組みにとまどう職員の方も多いと思います。これらの壁を円滑に乗り越え、希望する臨床研究が行えるよう、臨床研究部は今後もできる限り援助していきたいと考えています。研究に関してご不明な点や、疑問の点がありましたら遠慮なく相談していただきたいと思います。次回は平成28年秋、国立病院機構総合医学会の学会予行を兼ねて院内研究会を開催予定です。今後ともみなさんご協力をお願いいたします。

平成27年度 第2回院内研究発表会

平成27年度 まつもと医療センター第2回院内研究発表会プログラム

平成28年2月9日(火) 松本病院会議室 16時00分～18時20分

 = 優秀賞  = 奨励賞

開会のあいさつ (北野 喜良 病院長)

第Ⅰ部 (発表5分 質疑応答2分) 座長 武井 洋一(臨床研究部長)

- | | | | |
|---|--|------|-------|
| 1 | 看護師間での情報共有を行うことでの自己抜去予防策への意識強化 | 1C病棟 | 坪田千紗都 |
| 2 | 身体抑制減少への取り組み～当病棟における抑制解除に対する認識調査～ | 2C病棟 | 加藤 浩史 |
| 3 | 患者・家族へのニーズに沿った退院支援への取り組みを考える | 3A病棟 | 益子 織江 |
|  | 4 血液疾患でがん化学療法を受ける患者の口腔管理～口腔管理における看護スタッフの意識の変化～ | 4A病棟 | 宮嶋 純子 |
| 5 | 検査・処置を行う患児の不安軽減への関わり～看護師の意識調査から～ | 1病棟 | 中村ひとみ |
| 6 | 肺がん化学療法患者の脱毛に関する看護の一考察 | 2病棟 | 原 美枝 |

第Ⅱ部 (発表5分 質疑応答2分) 座長 渡辺 歩美(治験管理室副看護師長)

- | | | | |
|---|--|---------|-------|
| 7 | 摂食機能療法に対するスタッフの意識～KJ法から問題点と課題を明らかにする～ | 4病棟 | 高木 健太 |
|  | 8 当病棟における内服自己管理に関するインシデントの分析 | 5病棟 | 竹倉あかね |
|  | 9 長期臥床患者に対する呼吸状態改善への取り組み～体位ドレーンを取り入れて～ | 7病棟 | 太田 里美 |
| 10 | 呼吸器外科の側臥位手術時に使用する腋窩枕の素材の検討 | 第2報 手術室 | 山崎 榮子 |
|  | 11 気管切開患者の退院支援におけるソーシャルワーカーの役割 | 地域医療連携室 | 山本 理紗 |

第Ⅲ部 (発表5分 質疑応答2分) 座長 服部 正治(作業療法士長)

- | | | | |
|---|---------------------------------------|-------|-------|
| 12 | 重度の医療的ケアを要する利用者のその人らしさとは～療育活動記録を分析して～ | 療育指導室 | 上野ひとみ |
| 13 | 肩関節疾患評価法の検討—医師機能評価法と患者立脚型評価法の比較 | 医局 | 小林 博一 |
| 14 | 温熱効果を用いた超音波治療による関節可動域改善効果について | リハビリ科 | 岡崎 瞬 |
|  | 15 パーキンソン病患者に対する高強度運動療法の効果 シングルケース | リハビリ科 | 有賀 一朗 |
| 16 | 13トリソミー児に対する作業療法介入 | リハビリ科 | 佐藤 里絵 |

挨拶

教育研修委員長 武井 洋一



まつもと医療センター緩和ケアチーム活動報告



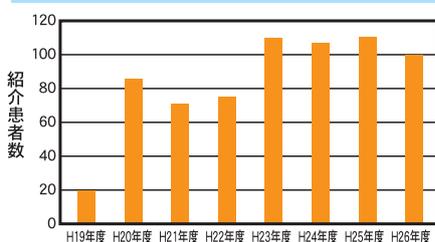
2007年7月に緩和ケアチームが立ち上げられ早9年が過ぎようとしています。年間80〜90例ほどの紹介を頂いています。介入内容としては、身体症状の緩和、精神症状、家族ケア、地域連携・退院支援、倫理的問題などの対応となっています。介入期間は1年以上の方もあれば数日という方もありました。外来で介入し入院に繋げ最期の日々を過ごした方もあれば、治療入院に合わせ鎮痛剤の調整を図りつつ緩和ケア外来でも経過を見られた方もあり様々なケースを経験させていただきました。「入院は嫌だけど家族には迷惑をかけたくない。」という患者さんと「家で過ごしたいのはわかっているの。でも、ちょっと支えることができるのかどうか心配なのです。」という家族の間に立ちどんな選択肢があるのだろうかと考える場面や、「痛いはずなのです。でも



我慢しているから何とかしてください。」という家族の訴えに患者さんに様子を伺うと「病气ってこういうものですよ。見てきているからわかるのよ。大丈夫。」と話され、鎮痛剤の導入を求め家族とありのままを受け入れようとする患者さんとの間でどのように対応したら良いか、スタッフ皆で考えながら関わる機会が増えました。近年ではできるだけ自宅で過ごしたい、最期を迎えたいと希望される患者さんやその家族が増え、揺れる気持ちに寄り添い在宅療養を支援してくださる環境を探し連携を図り希望を叶えられたケースがあり、時に困難と感ずることもありました。嬉しくこのようなケースを増やしていきたいと思えました。

緩和ケアチームの活動の中には、患者・家族への直接的間接的対応の他、院内や在宅療養支援者の方々と共に知識技術の向上などを目的とした勉

まつもと医療センター緩和ケアチーム
新規紹介患者数の推移



緩和ケア専任看護師

唐澤 からさわ

由美 ゆみ

強会の開催が年3〜4回あります。昨年度は『緩和ケアとは』『がんリハビリテーションとは』『緩和ケアチーム介入事例検討会』などと題して開催しました。参加者からは「チームワークが大切だと思った」や「家での様子がわかって良かった。」などの声が聞かれています。

患者さん家族にとって最善とは何か、その人らしく生きることを支えるとはなにかを考え、在宅療養を希望する患者さんを地域の皆様と共に支えて行くことが出来たらと思います。

パーキンソン病の治療 —早期の診断とリハビリが重要です—

パーキンソン病の有病率は10000人に1人で、加齢とともに増えて70歳以上では100人に1人がパーキンソン病に罹っているといわれています。

パーキンソン病の運動症状は、脳の黒質で造られているドーパミンが不足するために生じますが、4つの大きな特徴があり4大徴候と呼ばれています。

「振戦」は「ふるえ」の医学用語で、手足がふるえることです。パーキンソン病の振戦は、リラックスしているときに膝の上に置いた手などに見られ（安静時振戦）、道具を使うなど、動作をしているときは、逆に出現しないのが特徴です。また、通常は体のどちらかの側から出現します。パーキンソン病の「動作緩慢」は、自分から開始する動作が遅くなる一方で、外部からの知覚的な刺激に反射的に反応する動作は保たれるのが特徴といえます。例えば、自分から相手に向かってボールを投げる動作はのろくなりますが、自分に向かってくるボールを素早くキャッチすることは出来るのです。

「固縮」は、患者さんがリラックスした状態で、検者が関節を動かしたときに、固く感じられる状態です。「姿勢（反射）障害」は、体のバランスをとる機能の障害で、外から急に体を押されたりしたときにバランスを崩し易くなります。姿勢も前屈みになるので、転びやすくなります。けがに

パーキンソン病の4大兆候

- 振** 手足がふるえる
- 緩** 動作がゆっくりとなる
- 固** 筋肉が固まる
- 姿勢反射障害** バランスが取りにくい

繋がるので、4つの徴候のなかでも最も注意しなければいけない症状です。パーキンソン病では、これら4つの徴候がさまざまな組み合わせで出現してきますので、それに基づいて疑って診断を進めてゆくこととなります。

パーキンソン病の治療

パーキンソン病の治療の開始の目安は、日常生活で不便を感じるようになった時です。軽度であれば、早く症状が改善し、殆ど症状が消えてしまうこともあります。治療には、薬物療法とリハビリテーションの2つが内科的な治療の重要な柱です。薬物療法では、パーキンソン病で脳内に欠乏しているドーパミンを外からL-Dopaで補う補充療法が基本です。抗パーキンソン薬はL-Dopa以外にも新しい薬剤が次々と開発され、当院では新薬の試験に積極的に参加しています。しかし、現在の薬剤療法だけで良い状態を長く維持することは困難です。L-Dopaが世に出るから50年になりますが、未だにこれを越える有効な薬剤は無いのが現状です。

そこで今、注目されているのがリハビリテーションです。パーキンソン病のリハビリテーションの考え方は、近年大きな変革を遂げつつあります。以前は、歩行に障害が出はじめた時期から始められることが一般でした。体が硬くなってきたからの運動療法には制約があり、痛みや転倒も来たりやすいことが課題でした。これに対して、パーキンソン病の診断がついた早期からパーキンソン病の運動障害の性質に合った運



動訓練を開始することで、運動障害の進行が抑制され、薬剤の使用量も減らせることが分かってきました。米国で開発された「SVT-BG」の法運動療法やノルディック歩行などが注目されています。「SVT-BG」の特徴は、動作の速さよりもむしろ大きさに焦点をあてていることです。



運動に関係する脳内の神経回路を鍛える（神経の可塑性を高める）ことで、パーキンソン病の症状の進行を遅らせる可能性が考えられています。

当院では昨年度から、「SVT-BG」の入院リハビリプログラムを導入しました。訓練を受けて資格を取得したPTが本リハビリを担当しています。入院中の運動症状の改善にはしばしば目を見張るものがあります。それをどう日常生活に繋げてゆくかが今後の課題と思われまます。

パーキンソン病は難病といわれますが、患者さんひとりひとりの生活環境、障害の程度、職業などにあつた薬物治療とリハビリテーションを行うことで、機能を長い期間維持することが可能です。そのためには早期の診断が重要です。当科では今年から「ふるえ・からつき外来（パーキンソン病専門外来）」を始めました。パーキンソン病や関連疾患が疑われるとき、或いはパーキンソン病の治療にお困りのときに、ご紹介して頂ければ幸いです。

副院長 大原 慎司
おちほら しんじ

谷川整形外科クリニック 紹介



たにかわ ひろたか
谷川 浩隆 先生



〒390-0221 長野県松本市里山辺12090-1
TEL (0263) 87-8827 FAX (0263) 87-8828
URL : <http://www.tanikawaseikei.jp>

診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祭日
午前8:45～12:30	○	○	○	○	○	○	×
午後2:45～6:30	○	○	○	×	○	×	×

※受付時間は診療時間の30分前までとさせていただきます。
※木曜日・土曜日の午前診療は13:00まで。※休診日:日曜、祝日、木・土曜午後)

当院は開設3年の整形外科クリニックです。松本市南部からの患者さんも多く、まつもと医療センターの先生方にはいつも大変お世話になっております。簡単に自己紹介をしたいと思えます。私は生まれも育ちも松本で、幼稚園から医学部を卒業するまでのすべての学校が自宅から半径3km以内でした。昭和62年に大学を卒業して信大の整形外科に入局し、平成3年から2年間、癌研病院でフェロー医員として骨軟部腫瘍の研修をしました。大学に戻り腫瘍のチーフを任せられ、臨床では悪性骨軟部腫瘍に対する患肢温存療法をはじめとした手術手技の確立に力を入れました。研究では骨軟部腫瘍におけるサイトカインの発現を、当時隆盛になりつつあった分子生物学的手法で調べ学位を取得しました。

平成9年に大学から安曇総合病院に転出しました。関節外科と脊椎外科、リウマチ診療に力を入れ、人工関節の執刀は800例に達しました。大学からの研修医教育にも力を入れ、研修期間に病院の臨床データで論文を書いて学位を取得した研修医が複数名出ました。また日本体育協会公認スポーツドクターとして、サッカー・長野県選抜のフランス遠征に帯同したり、長野県スポーツドクター協議会の理事を務めました。また、かねてから興味があった整形外科的心身医療について勉強するため精神科を研修しました。以後、心療内科学会や心身医学会で講演やシンポジウムに招かれ、整形外科医として初めての評議員となりました。また開業ま

で心療内科学会の登録医審査委員を務めました。3年前にはPHPPサイエンス・ワールド新書から「腰痛をこころで治す 心療整形外科のすすめ」という一般書を出版することができました。病院に16年勤務した後、2013年7月に開業しました。クリニックはあがたの森の東側にあります。私が学生のころはまだ旧制松高の古い校舎の横に思誠寮があり、友人も入寮していたためよく遊びにいらしてました。現在は市民の憩いの場所になっており、診療の合間に公園の四季の変化を楽しんでいます。

腰痛や肩こり、関節痛や神経痛の患者さんのお話を聞いていると「私はこれが原因だと思う」というものがあったり、患者さんの考えている原因が当たっていることが非常に多く、患者さんの物語(ナラティブ)に沿った診療がいかに大切かという思いを強くしております。クリニックの周囲には小学校から高校まで8つ学校があるため、夕方になると中学生や高校生のスポーツ関連の患者さんが来院します。当院のホームページはほぼ毎週更新しており、わかりやすく整形外科疾患を理解してもらおうとブログによる発信もしています。ぜひ一度ご覧になってください。

生まれ育った松本の地で、地域の皆さまの健康を守るための整形外科医療を地道に行い、一方で運動器心身医療についても発信していきたいと思っております。

と今年度の予定について

平成28年度まつもと医療センター出前講座

★病気の診断、治療、予防について

()内は講座担当者です。

1. 医療倫理について (院長 北野喜良)
2. 血液がんについて (院長 北野喜良)
3. 貧血の診断と治療 (院長 北野喜良)
4. HIV感染症・エイズの診断と治療 (院長 北野喜良)
5. 白血病の診断と治療 (院長 北野喜良)
6. 頭痛に困ったら (副院長・地域医療連携室長 大原慎司)
7. パーキンソン病について (副院長・地域医療連携室長 大原慎司)
8. 脊髄小脳変性症について (副院長・地域医療連携室長 大原慎司)
9. 職場のメンタルヘルス (副院長・地域医療連携室長 大原慎司)
10. ウイルス肝炎からメタボ肝がんへ (統括診療部長 古田清)
11. ものわすれと認知症 (臨床研究部長 武井洋一)
12. 肥満と糖尿病：ヒトはなぜそんなに食べるのか？
(外来診療部長 青木雄次)
13. 安全・快適な手術のために～麻酔科医の役割とご自身にできること～
(手術部長 井上泰朗、麻酔科医長 新倉久美子)
14. 『慢性腎臓病 (CKD)』について (内科部長 樋口誠)
15. 内視鏡で治療できる消化器がん (消化器内科部長 宮林秀晴)
16. あなたの中にもピロリ菌～胃潰瘍・胃がんとピロリ菌の関係～
(消化器内科部長 宮林秀晴)
17. 逆流性食道炎について (消化器内科部長 宮林秀晴)
18. がん健診の上手な受け方 (外科部長 北村宏)
19. 造血幹細胞移植について (血液内科医長 伊藤俊朗)
20. 『高血圧症』に関する話題 (循環器内科医長 笠井宏樹)
21. 『脂質異常症』に関する話題 (循環器内科医長 笠井宏樹)
22. 『動脈硬化症』に関する話題 (循環器内科医長 笠井宏樹)
23. 『心不全』に関する話題 (循環器内科医長 笠井宏樹)
24. 小児の「肥満・メタボリック症候群」 (小児科医長 倉田研児)
25. 耳が関係するめまいについて (耳鼻咽喉科医長 後藤昭信)



平成26年度にリニューアルした『まつもと医療センター出前講座』も地域の皆さんからのご支援で3年目に迎えることが出来ました。出前講座とは、当センターの職員が地域住民の皆さんの健康増進・疾病予防の一助になるべく、その知識をわかりやすく提供(出前)する活動です。活動範囲は松本市・塩尻市を基本とし、講座のテーマは地域の需要に合わせて、生活習慣病の予防や健康管理からリハビリ、頻度の高い病気の事まで、子供さんから高齢の方まで楽しんで参加できるように幅広く用意しております。昨年度は26団体から申込をいただき、延べ33回の講座を開催する事が出来ました。地域の皆さんからも感謝の言葉をいただき、大変嬉しく、また励みに思います。ただ、せっかくご依頼をいただきながら

からも講師の日程調整が難しくお受けできなかった事例もあり、今後の課題と思っています。平成28年度は、さらに講座内容を充実させておりますので、多数の方の参加をお待ちしております。詳細は当センターホームページにアクセスまたは、経営企画室まで直接お問い合わせ下さい。末尾ながら本講座の実施に当たっては、いつもご尽力いただいている各市町村・団体のご担当者皆さまに厚く御礼申し上げます。

経営企画係長
地域連携室(併任) 岩橋 健
副院長 大原 慎司
地域医療連携室長

平成27年度 出前講座報告

平成28年度まつもと医療センター出前講座

★救急への対応

()内は講座担当者です。

- 26. 初夏からの脱水症予防 ～ちょっと一杯いかがですか～ (救急看護認定看護師 飯ヶ濱実)
- 27. 各事業所単位のAED講習 ～お客さま・社員を救えますか～ (救急看護認定看護師 飯ヶ濱実)
- 28. 心臓マッサージ・AED講習 ～地域住民の命を守りたい～
(救急看護認定看護師 飯ヶ濱実)
- 29. 小・中学生のための救命講習 ～大切な命・救える命～
(救急看護認定看護師 飯ヶ濱実)



★健康増進

()内は講座担当者です。

- 30. 健康増進のためのアンチエイジングの知識 (外来診療部長 青木雄次)
- 31. 少しでも腰の痛みを軽くするために！ (理学療法士 有賀一朗、岡崎瞬、松岡大悟)
- 32. 嚥下(えんげ)について ～嚥下体操♪～
(言語聴覚士 平林孝恵、藤原有紀)



★生活・介護に役立つ知識

()内は講座担当者です。

- 33. 家庭でできる感染対策 (インフルエンザ・ノロウイルス) (感染管理認定看護師 平林亜希子)
- 34. お子さんが感染性胃腸炎にかかったら… (感染管理認定看護師 平林亜希子)
- 35. 手洗いでばい菌バイバイ(^_^)/^^【こども・親子向け】 (感染管理認定看護師 平林亜希子)
- 36. がんとともに生活するためには ～自分らしく生きるためには～
(緩和ケア認定看護師 山添美保、唐澤由美)
- 37. 放射線ってこわいの？今だから理解しませんか (照射主任 飯塚一則、診療放射線技師 久木裕也)
- 38. いろんな装置で撮影できます！放射線検査あれこれ
(照射主任 飯塚一則、診療放射線技師 久木裕也)
- 39. 知っておくと安心。もしも病気になったら…医療のこと、介護のこと、福祉のこと
(相談支援センタースタッフ)



お知らせ

まつもと医療センター

市民公開講座

日時／平成28年7月23日(土)
13時30分～16時30分

場所／塩尻市市民交流センター
えんぱーく3F多目的ホール
テーマ／「お子さんから
お年寄りまで…2年後は
いっしょになります」

演題／
①岩崎康統括診療部長…
お子さんが急病になった時
②青木雄次外来診療部長…
あなたの知らない糖尿病と
炭水化物の関係
③小池祥一郎特命副院長…
(まつもと医療センターの
いま) 仮

まつもと医療センター

病院祭

日時／平成28年10月1日(土)
10時00分～

テーマ／「地域とともに
ひとつになろう」

会場／中信松本病院

まつもと医療センター 病棟等建替整備

整備進捗状況

平成28年5月12日
現在



暖冬のおかげで大雪等もなく、工程どおり順調にコンクリート工事、鉄筋工事、型枠工事等を行っております。建築工事は3階から4階にかけてのコンクリート打設、4階から5階の柱配筋・型枠工事を行っています。電気・機械設備工事においては、引き続き、壁・梁・床スリーブ、ピット内衛生配管工事・天井内機器吊込・配管・ダクト工事等を行っております。

また、内装工事も始まりB1階から壁の下地吹きつけ・アルミサッシの取り付け等も始まっています。

まだ、シートに覆われ建物自体は見えませんが、高い建物が建設されていることははっきりとわかるようになりました。

まつもと医療センター

第28号 平成28年6月1日発行
発行人 院長 北野 喜良

松本病院
〒399-8701 長野県松本市村井町南2丁目20番30号
TEL.0263-58-4567 FAX.0263-86-3183

中信松本病院
〒399-0021 長野県松本市寿豊丘811
TEL.0263-58-3121 FAX.0263-86-3190
<http://mmccenta.jp/>



●編集後記●
28年度がスタートし、悲しい別れと新たな出会いがありました。当たり前のことですが、それぞれの思いを抱き一歩一歩と前に向かって進まなければなりません。とにかく「働ける」という感謝の思いで前に進みたいと思います。

(Y)